

# 病害虫情報(第7号)10月予報

令和元年10月1日  
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333  
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

## 【内容】

- I 10月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 ..... 1  
【水稲、カンキツ、ナシ、チャ、抑制トマト、促成トマト、抑制キュウリ、促成イチゴ、ネギ、キャベツ、ダイコン】
- II 10月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 ..... 9

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、令和元年9月20日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

## I 10月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

### 【水稲】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
縞葉枯病	—	—	◆ 9月調査では、縞葉枯病の発病は見られず、発生は平年よりやや少ないが、媒介虫のヒメビウカカの越冬場所を減らす目的で次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②畦畔や休耕田の除草を徹底する。
スクミリンゴガイ	—	—	◆ スクミリンゴガイの生存率を下げる目的で次の対策を実施する。 ①秋冬期に田を複数回耕起すると殺貝効果が高い。貝を破碎するため、耕うんは走行速度を遅くし、回転数を早くして浅く細かく耕す。 ②用排水路で生存している貝の対策として泥上げを行う。地区全体で実施すると効果が高い。 ③休耕田も発生源になるので、できるだけ①の対策を実施する。

### 【カンキツ】 生育:並(足柄地区事務所:普通温州)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
ミカンハダニ	並	○	ダニサラバフロアブル [前日,2回] 1,000~2,000倍 オマイト水和剤 みかん : [7日,2回] 750倍 みかんを除くかんきつ : [14日,2回] 750倍 等 ◆ 収穫果を長期貯蔵する場合は防除が重要である。
カメムシ類	やや多	○	アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 等 ◆ 新世代成虫が山林から離脱しているため、今後の発生に注意する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報 (令和元年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【ナシ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
黒星病	やや少	○	(予) オキシラン水和剤 [3日,9回] 500～600倍 等 ☞ オキシラン水和剤は混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ 休眠芽への感染時期になるので、防除を徹底する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## 【カキ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
カメムシ類	やや多	○	アクタラ顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000倍 等 アーデントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 ❖ 新世代成虫が山林から離脱しているため、今後の発生に注意する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## 【チャ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
カンザワハダニ	並	○	マシン油乳剤 (97%, 98%) 等 ❖ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なるので、ラベルの記載に従うこと。 ❖ カンザワハダニは、秋に防除することで、大きな効果が得られる。
チャトゲコナジラミ	—	△	❖ チャトゲコナジラミは幼虫がすそ葉の葉裏に多く寄生するので、散布前にすそ刈りを行い、すそ部から茶株の頂上部に向けて斜め上方に薬液を散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(令和元年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【抑制トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント								
葉かび病	—	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, —] うどんこ病: 1,000～2,000倍、葉かび病: 1,000倍								
うどんこ病	—	○	(予・治) カンタスドライフロアブル [前日, 3回] 葉かび病: 1,000～1,500倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日, 2回] うどんこ病: 2,000倍 等 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。								
アブラムシ類	並	○	ベストガード水溶剤 [前日, 3回] 1,000～2,000倍 デアナSC [前日, 2回] アザミウマ類: 2,500～5,000倍、コナジラミ類: 2,500倍								
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや多	○	コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類、コナジラミ類: 4,000倍								
アザミウマ類	並	○	マッチ乳剤 [前日, 4回] コナジラミ類: 2,000倍、□ ミカンキイロアザミウマ: 1,000～2,000倍 エコピタ液剤 [前日, —] アブラムシ類: 100倍、コナジラミ類: 100～200倍 等 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。								
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病) GSNV(トマト茎えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類	TSWV(トマト黄化えそ病) GSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫										
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類										
TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類										
TSWV(トマト黄化えそ病) GSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類										
			<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施設開口部(出入口、天窓等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。</li> <li>◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。</li> <li>◆ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。</li> <li>◆ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。</li> </ul>								

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和元年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【促成トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント								
アブラムシ類	並	○	<b>【育苗培土混和または育苗期:粒剤施用】</b> ベストガード粒剤 [は種時又は鉢上げ時,1回] アブラムシ類、コナジラミ類:5g/培土L 又は、[育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類:1g/株、コナジラミ類:1~2g/株 ☞ 定植時までの処理は、1回以内。 <b>【育苗期:粒剤施用】</b> アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] □ コナジラミ類:1~2g/株 <b>【育苗期:散布】</b> ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍								
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや多	○									
アザミウマ類	並	○									
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">発生するウイルス病</th> <th style="text-align: center;">媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病) GSNV(トマト茎えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。</li> <li>◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。</li> <li>◆ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。</li> <li>◆ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。</li> </ul>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類	TSWV(トマト黄化えそ病) GSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫										
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類										
TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類										
TSWV(トマト黄化えそ病) GSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和元年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【抑制キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント									
べと病	やや少	○	(予・治) ライメイフロアブル [前日,4回] 2,000～4,000倍 (予・治) ゴーベックエニベル [前日,2回] 750倍 ☞ ゴーベックエニベルは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [前日,3回] 1,000～1,500倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ 草勢低下と夜間の結露等による葉の濡れが発生を助長する。									
うどんこ病	やや少	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,-] 1,000～2,000倍 (予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000～3,000倍 (予・治) プロパティフロアブル [前日,3回] 3,000～4,000倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000倍 ◆ 乾燥で発生が助長されるので、日中の過乾燥に注意する。									
褐斑病	やや少	○	(予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000～3,000倍 (予・治) カンタスドライフロアブル [前日,3回] 1,500倍 ◆ 多湿状態で施設を密閉すると蔓延しやすく、夜間の結露等による葉の濡れが発生を助長する。									
コナジラミ類 タバココナジラミ	多	○	ディアナSC [前日,2回] アザミウマ類:2,500～5,000倍、コナジラミ類:2,500倍									
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○	ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍 カスケード乳剤 [前日,4回] ミナミキイロアザミウマ:2,000～4,000倍									
アブラムシ類	並	○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td rowspan="2">コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> </tr> <tr> <td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> ◆ 施設内外の除草を徹底するとともに、栽培に関係のない鉢物等を施設内に持ち込まない。 ◆ 近年、抑制キュウリで黄化えそ病の発生が増加傾向にあるため、青色粘着板を設置し、アザミウマ類の発生消長を把握すると良い。 ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫											
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類											
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類											
BPYV(キュウリ黄化病)												
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類											

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報 (令和元年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【促成イチゴ】

病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	—	○	(予) タフパール [発病前～発病初期, —] 2,000～4,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, —] 1,000～2,000倍 (予) サンヨール [前日, 6回] 500～1,000倍 (治) カリグリーン [前日, —] 800～1,000倍 (予・治) モレスタン水和剤 [前日, 2回] 3,000～4,000倍 (予・治) プロパティフロアブル [前日, 3回] 3,000～4,000倍 (予・治) ポリオキシシAL水和剤 [収穫開始14日, 3回] 1,000倍 等
アブラムシ類	並	○	サンクリスタル乳剤 [前日, —] 300倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 2回] 2,000～4,000倍 等
アザミウマ類	—	○	マッチ乳剤 [前日, 4回] ミカンキイロアザミウマ:1,000～2,000倍 ハスモンヨトウ:3,000倍
ハスモンヨトウ	やや多	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 2回] アザミウマ類:2,000倍 アフーム乳剤 [前日, 2回] ハスモンヨトウ:2,000倍 等
ハダニ類	—	○	コロマイト水和剤 [前日, 2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

### ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:アフーム(1日)、コロマイト(1日)、モレスタン(3日)、ポリオキシシ(1日)、モスピラン(1日)

### タフパールと上記掲載剤の散布間隔 (メーカー技術資料より抜粋)

- ▶ ポリオキシシ、サンクリスタル、モスピラン水溶剤、マッチ、アフーム、コロマイト:混用事例あり  
サンヨール、カリグリーン、モレスタン:3日以上

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報 (令和元年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【ネギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
さび病	並	○	(予・治) アミスター20フロアブル [3日,4回] 2,000倍 (予・治) サプロール乳剤 [前日,5回] さび病:800~1,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [7日,2回] さび病:1,000倍
黒斑病	やや少	○	(予・治) ロブラール水和剤 [14日,3回] 黒斑病:1,000~1,500倍 等 ◆ 発生初期の防除を徹底する。 ◆ 薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。
ネギアザミウマ	並	○	ダントツ粒剤 [3日,4回:株元散布] ネギアザミウマ:3~6kg/10a スピノエース顆粒水和剤 [3日,3回]
シロイチモジヨトウ	やや多	○	アザミウマ類:2,500~5,000倍、シロイチモジヨトウ:5,000倍 ハチハチ乳剤 [7日,2回] 1,000倍 カスケード乳剤 [14日,3回] 4,000倍 プレバソンフロアブル5 [3日,3回] シロイチモジヨトウ:2,000倍 等 ◆ 薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## 【キャベツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒腐病	やや多	○	(予) Zボルドー [-,-] 500倍 (予) ヨネポン水和剤 [7日,5回] 500倍 (予・治) カセット水和剤 [7日,3回] 1,000倍 ☞ カセットは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ 強い降雨の後には、予防散布を行う。 ◆ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。但し、汚れをおこすため収穫間際の使用は控える。
菌核病	—	○	(予・治) アミスター20フロアブル [7日,4回] 2,000倍 (予・治) トップジンM水和剤 [3日,2回] 1,000~1,500倍 等
コナガ	やや多	○	アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] コナガ、ハスモンヨトウ:1,000~1,500倍 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。
ハスモンヨトウ	やや多	○	トルネードエースDF [7日,2回] コナガ:1,000~2,000倍、ハスモンヨトウ:2,000倍
オオタバコガ	並	○	カスケード乳剤 [7日,2回] 2,000~4,000倍 等 ◆ 大型鱗翅目害虫では、結球内に潜り込んだ幼虫には薬剤の効果が劣るので、結球前までの防除を徹底する。
ネギアザミウマ	多	○	ハチハチ乳剤 [14日,2回] アザミウマ類:1,000倍、アブラムシ類:1,000~2,000倍
アブラムシ類	並	○	アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] □ ネギアザミウマ:1,000倍 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報 (令和元年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【ダイコン】

病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
白さび病 (ワッカ症)	—	○	(予) ヨネポン水和剤 [7日,4回] 白さび病:500倍 (予・治) ピシロックフロアブル [前日,2回] 1,000倍 <span style="float:right">等</span>
アブラムシ類	並	○	ハチハチ乳剤 [30日,1回] 2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [14日,1回] アブラムシ類:2,000~4,000倍
ハイマダラノメイガ (ダイコンシンク イムシ)	やや多	○	アフームエクセラ顆粒水和剤 [14日,3回] ハイマダラノメイガ:1,500倍 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 エスマルクDF [発生初期(但し、前日),—]
ナモグリバエ	—	○	ハイマダラノメイガ:1,000倍 <span style="float:right">等</span>

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略



# 病害虫情報

(令和元年・第7号・10月)

神奈川県農業技術センター

## Ⅱ 10月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

### (1) 10月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部9月25日発表3か月予報)

#### 〈天 気〉

天気は数日の周期で変わるとでしょう。

#### 〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20%	30%	50%
降 水 量	30%	40%	30%
日照時間*	40%	30%	30%

\*9月26日発表1か月予報による。

### (2) 10月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年より多い。(＋) 3) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ナシ	黒星病	少	やや少	1) 巡回調査では、徒長枝での発生が平年よりやや少なく、短果枝での発生が9年平均よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(±)
カンキツ カキ	カメムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、カキ果実での発生は平年よりやや多い。(＋) 2) 巡回調査では、ナシ果実での発生は平年並。(±) 3) フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、平年に比べ県予察ほ(根府川)、伊勢原、南足柄で多い。(＋) 4) 予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数は、平年に比べ県予察ほ(根府川)、伊勢原で多く(＋)、山北でやや少なく(－)、県予察ほ(上吉沢)で平年並(±)。 5) ヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシの寄生数は、平年より多い。(＋) 6) ヒノキ球果におけるカメムシの口針鞘数は、平年より多い。(＋) 7) ヒノキ球果の着果量は少ないことから、新世代成虫の発生量は平年並と予想される。(±) 8) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(±)
チャ	カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より多い。(＋) 3) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(令和元年・第7号・10月)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
抑制トマト 促成トマト	タバココナジラミ	少	やや多	1) 抑制トマトの巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 抑制キュウリの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	アザミウマ類	少	並	1) 抑制トマトの巡回調査では、被害は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(＋)
抑制キュウリ	べと病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(±)
	褐斑病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 青色粘着板調査では、捕獲虫数が大磯町では過去5年平均並(±)、平塚市では平年並(±)。 3) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ワタヘリクロノメイガ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(令和元年・第7号・10月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ネギ	さび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(±)
	黒斑病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ネギアザミウマ	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	シロイチモジヨトウ	少	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜は平年並(±)、伊勢原と県予察ほ(上吉沢)は平年より多い(＋)。 2) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(＋)
キャベツ	黒腐病	少	やや多	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 9月8日～9日に台風15号が通過し、強風を伴う大雨があった。(＋) 3) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(±)
	コナガ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、伊勢原では平年並(±)、横浜では平年よりやや少ない(－)。 3) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢、三浦ともに平年並。(±) 4) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ネギアザミウマ	中	多	1) 巡回調査では、発生が8年平均より多い。(＋) 2) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ダイコン	ハイマダラノメイガ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の誘致花(クレオメ)への寄生は、平年より多い。(＋) 3) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(令和元年・第7号・10月)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
野菜全般	アブラムシ類	－	並	1) 巡回調査では、キャベツでは発生が平年よりやや少なく(－)、抑制キュウリでは、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 県予察ほの黄色水盤への飛来量は、上吉沢では平年並(±)、三浦では平年よりやや多い(+) 3) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ハスモンヨトウ	－	やや多	1) キャベツの巡回調査では、発生が5年平均より多い。(+) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年より多い。(+) 3) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢、三浦ともに平年並。(±) 4) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(+)
	オオタバコガ	－	並	1) キャベツの巡回調査では、発生は平年並。(±) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年より少なく(－)、横浜では平年よりやや少なく(－)、伊勢原では平年並(±)。 3) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢、三浦ともに平年より少ない。(－) 4) 気温は高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (－):少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

## ★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス、ネクスター、パレード20)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回

## ★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンバル、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(フェステイバル水和剤等)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

## ★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回